

福山市立大門中学校区 道徳教育の実践

平成25年度小・中・高等学校道徳教育実践研究事業
(文部科学省委託)

大 門 中学校
大津野 小学校
旭 丘 小学校
野々浜 小学校

INDEX

1 中学校区の紹介

2 研究内容

- ・1年目の取組
- ・2年目の取組
- ・3部会の実践

3 まとめ

- ・児童生徒アンケート結果
- ・教員アンケート結果

4 次年度へ



1 中学校区の紹介

大門中学校区は、県東部に位置し、岡山県との県境にある。

生徒数は、358人
児童数は、848人
総児童生徒数 1206人

大門中学校区

2 研究内容〈1年目の取組〉

昨年度(H24)の研究結果〈教員の意識〉

取組内容は、

中学校区の小中教員が、
他校に出向き、授業を参観した
互いに協議し、道徳教育を学び合った
部会では、「育てたい子どもの姿」を検討した

教員の気付きは、

小中9年間で
「道徳性の育成を図る」という共通認識を持た

2 研究内容〈1年目の取組〉

昨年度(H24)の課題〈児童生徒〉

児童生徒の自己肯定感は、

82.1% - 58.8% = 23.3

小学校 中学校 差

「自分にはよいところがある」の肯定的評価
H24. 11月に実施した児童生徒アンケートによる

2 研究内容〈1年目の取組〉

昨年度(H24)の課題〈教員の意識〉

互いの授業を「見る、見せる」ことで、

気付き

自らの意見をしっかりもたせることや
お互いの意見を尊重する話し合いなど、
道徳の時間との関連をもたせた各教科
等での指導が不十分であること

2 研究内容〈2年目の取組〉

研究主題

豊かな知性，人間性を持ち，
判断力・実践力のある児童・
生徒の育成

2 研究内容〈2年目の取組〉

研究仮説 No. 1

中学校区で児童生徒の発達段階に応じた「育てたい子どもの姿」を見直し，共通理解を深め，小中学校が意図的・計画的に取り組むことで生徒相互及び教師と児童生徒との信頼関係の強化につながり，児童生徒の道徳性が高まるであろう

2 研究内容〈2年目の取組〉

研究仮説 No. 2

道徳の時間を要とし，他教科等と関連させ，実践の場を位置付けた総合単元的な道徳学習を行うことで，児童生徒の道徳的な判断力，実践意欲と態度などの道徳性が高まるであろう

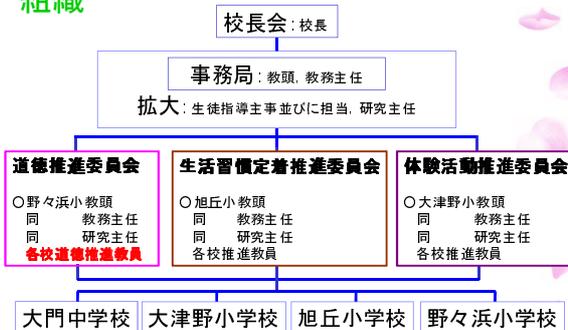
2 研究内容〈2年目の取組〉

検証方法等

項目	方法	目標
①道徳の時間の充実	「育てたい子どもの姿」系統図に係るアンケート（中学校区作成）	肯定的評価を昨年度以上
②自己肯定感	本事業で実施するアンケート	研究主題に関する項目の肯定的評価を昨年度以上
③規範意識		

2 研究内容〈2年目の取組〉

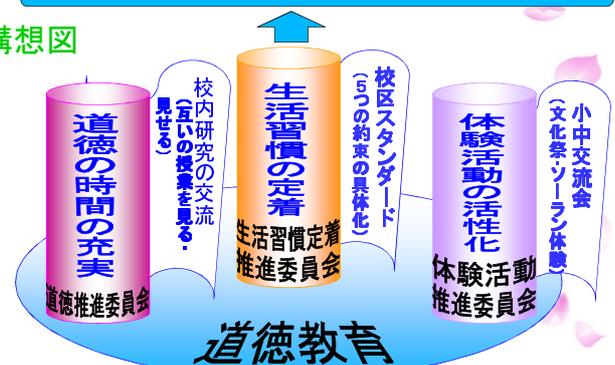
組織



2 研究内容〈2年目の取組〉

豊かな知性，人間性を持ち，判断力・実践力のある児童・生徒

構想図



2 研究内容 (道徳推進委員会)

取組

- ① 「育てたい子どもの姿」の系統を見直し、共通理解を図り、小中9年間を見通した意図的・計画的な実践
- ② 総合単元的な道徳学習に位置付けた道徳の時間を交流(見る, 見る, 見せる)

2 研究内容 (道徳推進委員会)

取組 ①

「育てたい子どもの姿」系統図

段階	学年	個性の伸長 1-(5)(6)	思いやり・親切 2-(2)	公徳心・規則の尊重 4-(1)
中学校	3年	自己との対峙を深め、自己を肯定的にとらえ、充実した人間としての生き方についての自覚を深める。	思いやりの大切さに気づき、互いの存在を肯定的に受け止め、ともに支え合おうとする自覚を深める。	社会生活の中で守るべき法やまじりを大事にし、社会をよりよくしようとする自覚を深める。
	2年	自己との対峙を深め、自己を肯定的にとらえる。	思いやりの大切さに気づき、自分も他の人も、ともにかけがえのない人間であるということを見識する。	法やまじりの意義をわきまえ、社会や集団の秩序と規律を、自ら高めていこうとする意欲をもつ。
小学校	1年	かけがえのない自己を肯定的にとらえる。	思いやりの大切さに気づき、他の人のためにしても思いやりの心をもち、相手に立場に立って親切にする。	法やまじりの意義を理解し、遵守することの大切さを自覚する。
	高学年	自分の特徴を知って、悪い所を改めよい所を積極的に伸ばす。	だれに対しても思いやりの心をもち、相手に立場に立って親切にする。	社会に一人としての自覚をもち、公徳心をもって法やまじりを守り、自他の権利を大切にしながら義務を果たす。
小学校	中学年	自分の特徴に気づき、よい所を伸ばす。	相手のことを思いやり、進んで親切にする。	約束や社会のまじりの意義について考え、進んでまじりを守る。
	低学年	自分のよい所に気づく。	幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。	約束やまじりを守り、みんなが使うものを大切に使う。

2 研究内容 (道徳推進委員会)

第6学年 役割と責任を果たす心を育てる学習プログラム 1学期

総合	5月～	7月	全11時間
めざすねらい	役割と責任を自覚し、協力して主体的に責任を果たす子	中心項目	4-(3)
めざすねらい	自分の役割と責任を自覚し、協力して主体的に責任を果たしていこうとする態度を育てる。	関連項目	4-(6)

取組 ②

総合単元的な道徳学習構想図

時期	各教科、特別活動、総合的な学習の時間等	道徳の時間	日常生活、家庭・地域との連携	子どもの意識の深まり
5月	①体育科 5月(1時間)「ラリー」バントパスの意味を考えながらチームのため自分の意を	②(役割と責任の自覚) 4-(3) 5月(1時間)「森の絵」文男の言葉を聞いたえり子の気持ちを考えさせることを通して、進んで役割を果たすよさに気づかせ、自分の役割を自覚しようとする心育を育てる。	(縦割り班排除) リーダーとして、下級生に必要なアドバイスを考えながら排除を進めるこ	① はじめての遠足のリーダーになった。みんなをリードしていくのが大変だったな。 ② どんな役割でもその役割がなければ罰ができない。全部大事な役目だ。自分も役割をきちんと果たしていきたい。 ③ チームの一員としてバントパスを渡った。バントパスがなくなっているのを見てうれしかったよ。
6月		④(公徳心) 4-(6)		

2 研究内容 (道徳推進部会)

合同研修会

板書計画



模擬授業



事前

授業

中心発問



書く活動



グループ対話



2 研究内容 (生活習慣定着推進委員会)

取組

児童生徒の発達の段階に応じ、5つの約束(校区リーフレット)の取組を中学校区スタンダードへと発展させる

- ① 道徳教育を推進する上で、基本的な生活習慣を育てていくために、道徳教育との関連を明らかにする
- ② 発達の段階に応じた目標設定をする
- ③ 保護者、地域へ協力を依頼する
- ④ 検証を通して、成果と課題を明らかにし、次への取組に生かす

大門中学校区

しっかりとした生活習慣や学習習慣を身につけよう

5つの約束

- ① 早寝・早起き・朝ごはんの習慣を身につける
- ② あいさつをする
- ③ おはよう/ごんにも「ごんごんはな」/おはよう/ごんにも「ごんごんはな」/おはよう/ごんにも「ごんごんはな」
- ④ けじめのある生活をする
- ⑤ 毎日家庭学習をする
- ⑥ 毎日読書をする

※朝ごはんを食べる習慣を身につける

2 研究内容 (生活習慣定着推進委員会)

実践

大門中学校区スタンダード

項目	めざす子どもの指標			具体的手だて		検証
	小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	学校	家庭・PTA・地域	
① 習慣	21時まで寝る	21時30分まで寝る	21時30分まで寝る	自分合った睡眠時間を確保(6時間以上)	保護者への啓発・各便りを発行・学級懇談会で協力依頼	生徒アンケート 保護者アンケート 学級懇談などで実態調査
② あいさつ	誰にでも元気よく挨拶をする	誰にでも元気よく挨拶をする +相手の顔を見て	誰にでも元気よく挨拶をする +相手の顔を見て +時と場所に応じて	礼儀正しくと相応した挨拶のあいさつ +自ら進んで立ち止まり会話を	校門でのあいさつ運動 委員会・部活動による活動	保護者が積極的にあいさつ おはようあいさつ PTAあいさつ運動
③	チャイムを聞いて行動	チャイムを聞いて行動	時計を見て自分から動	時計を見て自分から動く	3点固定 ①起床時刻 ②学習開始時刻	生活リズムの定着 生徒アンケート 朝の学習などで

2 研究内容

〈体験活動推進委員会〉

取組

小中合同行事を通して、達成感を味わわせ、自己肯定感の向上を図る

- ① 行事で小学校と中学校をつなぐ
 - ・学区体育祭のソーラン指導
 - ・中学校文化祭に小学生が合唱で参加
- ② 取組を、地域や保護者に情報発信
 - ・小中共通のたより等
- ③ 取組の検証・分析

2 研究内容

〈体験活動推進委員会〉

取組

行事で小学校と中学校をつなぐ

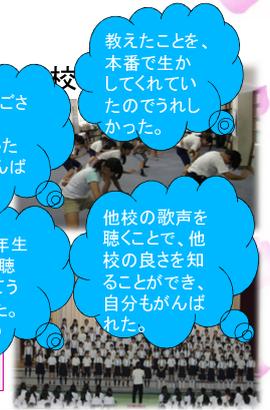
月日	内容
6月24日	推進委員会 ・実施計画、内容
8月22日	中学生が小学生へ指導 ・運動会での踊り
9月21日	中学校文化祭 ・小学生が合唱
2月6日	生徒会による説明会 ・小学校6年生に中学校生活を紹介

先輩のすごさを感じた。「みならいたい」「がんばりたい。」

教えたことを、本番で生かしてくれていたのうれしかった。

中学校3年生が真剣に聴いてくれてうれしかった。ありがとう

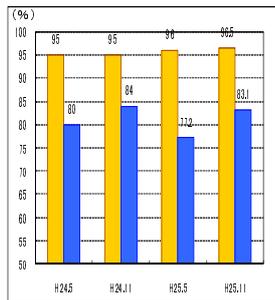
他校の歌声を聴くことで、他校の良さを知ることができ、自分もがんばれた。



3 まとめ

児童生徒アンケート《肯定的評価》

「道徳の時間の勉強はためになると思う」

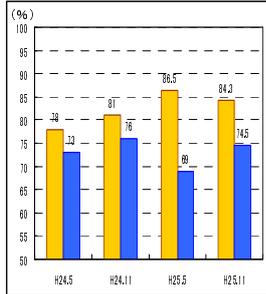


- 小学校
高い水準で維持されている
- 中学校
5月と11月を比較すると向上している
- 小学校との差は、ほとんど変わっていない

3 まとめ

児童生徒アンケート《肯定的評価》

「道徳の時間では、他の人の考えを聞きながら自分のことについてよく考えている」

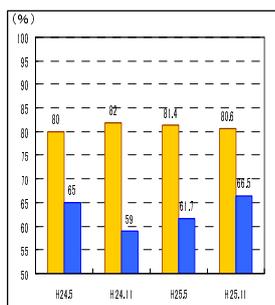


- 小学校
H24よりH25が向上している
- 中学校
5月と11月を比較すると向上している
- 意図的指名によってねらいに追っていき話し合いが不十分である

3 まとめ

児童生徒アンケート《肯定的評価》

「自分にはよいところがあると思う」



- 小学校
80%台で維持している
- 中学校
H24.11月に60%を割ったが、H25は向上している
- 小中合同行事等の充実を図っていく必要がある

3 まとめ

しかし、心の栄養は、児童生徒の内面に蓄積されつつある

—児童生徒の感想文から—

チームみんなで一生懸命練習してきたので本番が終わった時の達成感がすごくありました。クラスの団結力も高まりました。

—大門中学校1年生「体育祭を観て」—

私は、人との関わり方やコミュニケーションが大切だと分かりました。話を聞く態度にも気を付けました。

—大門中学校2年生「文化祭を観て」—

文化祭は、役者だけでなくほかの大道具の人たちとかもいないと成功できなかったものです。学年全員一人一人が自分の仕事をきちんとやったからこそ成功した文化祭だったと思います。

—大門中学校3年生「文化祭を観て」—

3 2年間の実践のまとめ

今年度(H25)の研究成果《教員の意識》

互いの授業を「見る、見せる」ことで、

手に入れた

互いの学校の様子や児童生徒の姿を見ることで、学校の取組を見直す機会となった小中9年間を見据えた授業を進めたい

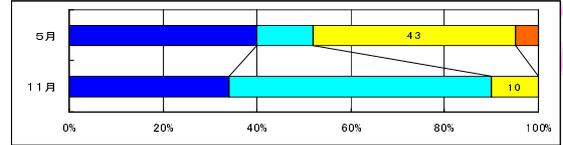
模擬授業をすることで、教材研究を深めることの大切さが分かった



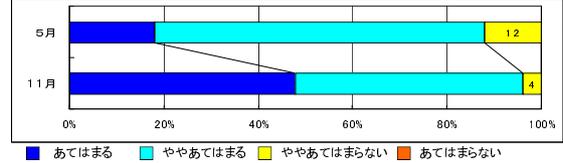
3 2年間の実践のまとめ

今年度(H25)の研究成果《教員の意識》

児童生徒にとって「道徳の時間」が楽しい時間となるよう工夫をしている



中学校区(推進地域)の道徳教育に関する情報交換や研修は充実していると思う



3 2年間の実践のまとめ

今年度(H25)の研究成果《教員の感想》

《道徳の時間に関して》

道徳の時間の前後に、学年の教員同士で相談したり、交流したりする時間を持つようになった

資料分析や発問の構成を十分にすれば、子どもの発言が変わってくるのが実感できた

半年で「道徳の時間の構想」を考える意見を交流し、よりよい授業を目指すことができた

「道徳の時間の構想」を練ったときの道徳の時間は、子どもの反応に対し落ち着いて対応できた

3 2年間の実践のまとめ

今年度(H25)の研究成果

道徳教育を研究すると

教師が▼かわる

児童生徒の発言を聞くようになる
児童生徒の発言を待てるようになる

児童生徒もかわる

周りの子の考えを聞いて、自分なりの考えを発展させる
道徳の時間の学びをポジティブに捉え、生活に生かそうとする

ご清聴ありがとうございました。

